

Chapter 1

日常臨床に潜む咬合由来の問題の見極めかたと解決法

1 咬合由来の視点を“う蝕の診断”に加えてみよう

- 1 歯だけにう蝕があるのはなぜ？
- う蝕の「透過像の違い」に注目！
 - スプリントの装着部位は上顎？下顎？

2 咬合由来の視点を“歯周病の診断”に加えてみよう

- 1 歯だけ歯周ポケットが改善しないのはなぜ？
- 側面観から咬合関係を確認しておく
 - 咬合関係に違和感を感じたらブラキシズムの有無を確認する
 - なぜ第一大臼歯と第二大臼歯間にフードインパクションが頻発するのか？

3 咬合由来の視点を“知覚過敏の診断”に加えてみよう

- 治療薬を使用しても知覚過敏症状が改善しないのはなぜ？
- 強大な咬合力を示すヒントを見逃さない

Chapter 2

顎関節症状に潜む咬合由来の問題の見極めかたと解決法

1 咬合由来の視点を“顎関節の痛みの診断”に加えてみよう

- 「顎が痛い」のはなぜ？
- 咬筋部や側頭筋部に圧痛が生じる原因を知る
 - ナイトガードはハードかソフトか？

2 咬合由来の視点を“関節円板前方転位の診断”に加えてみよう

- 「開口すると顎から音がする」のはなぜ？
- 頭部エックス線規格写真も撮影する習慣を持つ
 - CADIAX Curves と Reference SL 咬合器®をどのように連動させるか？

3 咬合由来の視点を“非復位性関節円板前方転位の診断”に加えてみよう

- 開口障害が生じてしまったのはなぜ？

4 咬合由来の視点を“Partial Lock の診断”に加えてみよう

- 開口すると下顎が偏位するのはなぜ？
- チェアーサイドで今すぐできる！非復位性関節円板前方転位と Partial Lock の鑑別診断法

Chapter 3

矯正治療の進めかたを咬合の視点から考えてみよう

1 矯正治療の進めかたを咬合の視点から考えてみよう

- 上顎前突は「抜歯して上顎前歯を後方へ移動させる」がベストな方法か？
- 相反性クリックとは？

2 “下顎前突”の治療ゴールを顎機能の視点から考える

- 下顎前突は「下顎を後方へ移動させる」がベストな方法か？
- バイトの深い前歯部の反対咬合に対する戦略

3 “叢生”の治療ゴールを顎機能の視点から考える

- 叢生の治療は「第一小臼歯抜歯」がベストな方法か？
- 小臼歯抜歯がもたらすリスクを知る

4 “開咬”の治療ゴールを顎機能の視点から考える

- 開咬（オープンバイト）の治療は「臼歯の圧下」がベストな方法か？

5 “過蓋咬合”の治療ゴールを顎機能の視点から考える

- 過蓋咬合の治療は必要ないのだろうか？
- 前歯部の深い被蓋関係と顎関節症の関係をj知る
 - 「自由運動」と「ガイド運動」の軌跡に差がある場合の診断について
 - 「回転」と「滑走」のバランスは外側翼突筋と顎二腹筋の相互関係によって成立する

Chapter 4

咬合の問題解決のスタート地点は「咬合平面と咬合高径の診査」にあり

1 咬合平面の診査が大切な理由を理解する

- 咬合平面の前後的・左右的な位置関係が導く顎関節への影響

2 咬合高径の診査が大切な理由を理解する

- 咬合高径の低下は上下顎前歯同士が審美的に良好な関係であったとしても起こりえる

3 咬合平面と咬合高径へのアプローチは幼少期から

- 咬合平面と咬合高径の設定で骨格性反対咬合を予防する

診断力を上げる

日常臨床に潜む咬合由来の問題の診断と治療

う蝕、歯周病から顎関節症、不正咬合まで

著 杉山 豊

杉山歯科医院

咬合に対する理解が深まると
歯科医院の臨床レベルが
飛躍的に向上します！

- なぜ1歯だけにう蝕や歯周ポケットが生じるのか？
- どうして顎関節痛や開閉口障害が生じるのか？
- 叢生や前突などの改善に便宜抜歯や外科矯正は必ず必要なのか？

日常臨床でよく出会うこれらの症状や疑問は、咬合の観点から精査することで「問題点」と「今すべきこと」が見えてきます。

咬合由来の問題点を整理しながら、生体への負担が少ない機能回復の方法を一緒に学んでみませんか？

A4判 184ページ
ISBN 978-4-909066-65-7 C3047
定価 12,000円+税

注文票

品名	定価	冊数
診断力を上げる 日常臨床に潜む咬合由来の問題の 診断と治療	12,000円+税	

インターアクション株式会社

東京都武蔵野市境南町 2-13-1-202
TEL 070-6563-4151 FAX 042-290-2927
https://interaction.jp



診断力を上げる
日常臨床に潜む
咬合由来の問題の
診断と治療

う蝕、歯周病から顎関節症、不正咬合まで

杉山 豊

杉山歯科医院



本書は

豊富な臨床例とわかりやすいイラストであなたの理解をサポートします

日常臨床における咬合の診断・咬合治療の核心に迫る一冊です！

顎機能の問題点を可視化して 客観的に評価する・治療に活かす方法を学ぶ！

咬合や顎機能の評価に活用できる 着眼点や各種診査方法を学ぶ！

WORDS

コンディログラフとはコンピュータ化されたアキシオグラフであり、その際に使用するソフトがCADIAXである。アキシオグラフとは装置に固定するアッパー・ボウ上の描記機と、下顎に固定するローアー・ボウ上の描記機により下顎運動を採得する装置である。

図5-9 コンディログラフによる下顎運動の描記機の様子（筆者の歯科医院にて撮影）

WORDS

CADIAX Curvesとは、コンディログラフを用いて開口運動、側方運動、前後運動などを記録した三次元的な下顎運動の動きをCADIAX上で矢状面・前頭面・水平面に分けて表示したものである。

図5-10 CADIAX上で表示されたコンディログラフ

図5-11 開口運動時のCADIAX Curves。右側下顎運動の軌跡上に2ヶ所矢状曲線が確認できる。赤矢印部分は関節前方脱臼が疑われている状態（関節前方脱臼が疑われている状態）。赤矢印部分は関節前方脱臼が疑われている状態と認められる。

図5-12 GAMMA 3 型 Reference SL 咬合器。CADIAX Curves により得られた情報を Reference SL 咬合器® に反映させ、治療用顎位を設定する。

Chapter 2 顎閉鎖時に進む咬合由来の問題の見極めと解決法

咬合由来の問題を「関節前方脱臼」に加えてみよう

ココに注目

本症例の着眼点
CADIAX Curves で示された開口運動時の軌跡をどう解釈し、治療に反映させるか？

CADIAX Curves の開口運動を可視化し、Reference SL 咬合器® 上で再現できれば、咬合由来の問題の見極めと解決法がわかる。この CASE 5-10 を参考にしよう。

図5-13 CADIAX Curves における開口運動の軌跡。矢状面・前頭面・水平面に分けて表示されている。矢状面・前頭面・水平面に分けて表示されている。

図5-14 CADIAX Curves 上で表示された開口運動の軌跡。矢状面・前頭面・水平面に分けて表示されている。

図5-15 GAMMA 3 型 Reference SL 咬合器。CADIAX Curves により得られた情報を Reference SL 咬合器® に反映させ、治療用顎位を設定する。

▶ CADIAX Curves で得られた情報を具現化する Reference SL 咬合器® を用いた治療用顎位の設定方法を具体的に解説しています。

Chapter 1 日常臨床に役立つ咬合由来の問題の見極めと解決法

咬合由来の問題を「う蝕の診断」に加えてみよう

1 歯だけにう蝕があるのはなぜ？

図5-16 咬合由来の問題を「う蝕の診断」に加えてみよう

図5-17 咬合由来の問題を「う蝕の診断」に加えてみよう

図5-18 咬合由来の問題を「う蝕の診断」に加えてみよう

図5-19 咬合由来の問題を「う蝕の診断」に加えてみよう

図5-20 咬合由来の問題を「う蝕の診断」に加えてみよう

Chapter 1 日常臨床に役立つ咬合由来の問題の見極めと解決法

咬合由来の問題を「う蝕の診断」に加えてみよう

図5-21 咬合由来の問題を「う蝕の診断」に加えてみよう

図5-22 咬合由来の問題を「う蝕の診断」に加えてみよう

図5-23 咬合由来の問題を「う蝕の診断」に加えてみよう

図5-24 咬合由来の問題を「う蝕の診断」に加えてみよう

図5-25 咬合由来の問題を「う蝕の診断」に加えてみよう

顎機能の評価・診断に軸足をおいた スプリント療法と矯正治療を学ぶ！

下顎位の変更時にキーとなる 咬合平面と咬合高径の評価・設定のしかたを学ぶ！



【著者紹介】
杉山 豊 先生

宮城県仙台市
杉山歯科医院院長／歯学博士

口の中の問題を多角的に、総合的に診断する重要性を痛感し、日本歯周病学会（専門医）、日本臨床歯周病学会（指導医、歯周インプラント認定医）、日本顎咬合学会（指導医）、日本インプラント学会（専修医）、日本臨床歯科学会など多数の学会に所属し、自己研鑽を継続中。特に歯周病の治療、噛み合わせの治療に力を注いでいる。

1988年 岩手医科大学歯学部卒業
2007年 東北大学大学院歯学研究科卒業

Chapter 3 咬合と顎機能の視点から、咬合位・筋肉・顎頭位の一致を目指す矯正治療の進めかたを具体的に解説しています。

図5-26 咬合と顎機能の視点から、咬合位・筋肉・顎頭位の一致を目指す矯正治療の進めかたを具体的に解説しています。

図5-27 咬合と顎機能の視点から、咬合位・筋肉・顎頭位の一致を目指す矯正治療の進めかたを具体的に解説しています。

Chapter 4 咬合平面の診査が大切な理由を理解する

咬合平面の前後・左右的な位置関係が導く顎関節への影響

図5-28 咬合平面の診査が大切な理由を理解する

図5-29 咬合平面の診査が大切な理由を理解する

Chapter 4 咬合平面の診査が大切な理由を理解する

咬合高径の低下は上下顎前歯同士が審美的に良好な関係であったとしても起こりえる

図5-30 咬合高径の低下は上下顎前歯同士が審美的に良好な関係であったとしても起こりえる

図5-31 咬合高径の低下は上下顎前歯同士が審美的に良好な関係であったとしても起こりえる

Chapter 4 咬合平面の診査が大切な理由を理解する

顎関節（下顎頭）への影響を考慮した咬合高径の変更のしかたを症例を用いて解説しています。

図5-32 顎関節（下顎頭）への影響を考慮した咬合高径の変更のしかたを症例を用いて解説しています。

図5-33 顎関節（下顎頭）への影響を考慮した咬合高径の変更のしかたを症例を用いて解説しています。

Chapter 3 咬合と顎機能の視点から、咬合位・筋肉・顎頭位の一致を目指す矯正治療の進めかたを具体的に解説しています。

図5-34 咬合と顎機能の視点から、咬合位・筋肉・顎頭位の一致を目指す矯正治療の進めかたを具体的に解説しています。

図5-35 咬合と顎機能の視点から、咬合位・筋肉・顎頭位の一致を目指す矯正治療の進めかたを具体的に解説しています。

Chapter 4 咬合平面の診査が大切な理由を理解する

咬合高径の低下は上下顎前歯同士が審美的に良好な関係であったとしても起こりえる

図5-36 咬合高径の低下は上下顎前歯同士が審美的に良好な関係であったとしても起こりえる

図5-37 咬合高径の低下は上下顎前歯同士が審美的に良好な関係であったとしても起こりえる

Chapter 4 咬合平面の診査が大切な理由を理解する

顎関節（下顎頭）への影響を考慮した咬合高径の変更のしかたを症例を用いて解説しています。

図5-38 顎関節（下顎頭）への影響を考慮した咬合高径の変更のしかたを症例を用いて解説しています。

図5-39 顎関節（下顎頭）への影響を考慮した咬合高径の変更のしかたを症例を用いて解説しています。

Chapter 4 咬合平面の診査が大切な理由を理解する

咬合高径の低下は上下顎前歯同士が審美的に良好な関係であったとしても起こりえる

図5-40 咬合高径の低下は上下顎前歯同士が審美的に良好な関係であったとしても起こりえる

図5-41 咬合高径の低下は上下顎前歯同士が審美的に良好な関係であったとしても起こりえる

◀ 今日から実践できる咬合や顎関節の診査方法を多数解説しています。